法華経と私たち　第四回

譬喩品第三

舎利弗は歓喜し釈尊に「ここにいる一千二百人の阿羅漢（小乗仏教で最高の悟りに達した聖者）達は世尊の教えの通り修行を重ね、生・老・病・死を離れて悟りを得たと思いますが、いまだかって聞いた事のない世尊の法を聞いて動揺しています。どうか修行僧達の疑念をはらして下さい。」と言った。

釈尊は譬え話をしようと「ある国に五百人の使用人と二十人の子供がいる、家は古く、門が一カ所しかない長者がいたとしよう。

ある時家が火事になった。それを知らず子供達は遊んでいる。長者は大声で叫んだが、子供達は状況を理解しなかった。そこで長者は子供達の好きな、山羊の車・鹿の車・牛の車があると子供達に伝え、好きな物をあげると言った。子供達は先を争って門から出て無事に火宅を逃れ助かった。子供達は長者の所に来ると、口々にそれぞれの車をくれるようにお願いした。長者は私の資産は限りないから子供達に劣った小さな車を与えるべきでないと、差別せずに七宝で飾られた最高の車をあげた。子供達は望んだ以上の贈り物を貰った。」と話された。

釈尊は「この長者は子供達に嘘をついたのだろうか」と、舎利弗、「長者は子供達を火宅から救い出そうとの考えからなので嘘をついたことにはならない」と答えた。

続けて釈尊は「如来も全くその通り、衆生は三界の火宅にいるため方便を使って、声聞乗（法を聞いて精進し三界を抜け出すこと）は山羊の車に当たるだろう。辟支仏乗（諸佛の教えに会うこともなく、一人で修行して縁起の法を知り、自ら火宅を抜け出すこと）は鹿の車に当たるだろう。菩薩乗（法を聞いて修行を重ね、衆生に利益をもたらそうと精進すること）は牛の車に当たるだろう。」このように諸仏は方便により法を説くのであると答えられた。

お墓のお手入れとお墓の用語集

お墓のお手入れ

どんなに頑丈に作られたお墓でも、時間の経過とともに石に傷がついたり風雨の浸食で風化が生じたりします。地震や地盤沈下によるズレなどの影響もあるかも知れません。お墓を長持ちさせるためには、雑巾やタワシで丹念に汚れを落とし、墓石を洗った後、乾いた布で必ず水分を拭き取っておきます。濡れたままにしておくと苔が生えて劣化する原因になります。これを避けるためには、こまめな掃除が大切です。

お墓に関する用語集

お墓の用語について知っておかれると良いと思いますので、お墓に関する用語を解説致します。

①墓石　石塔の中で家名などを刻（竿石）む中心的な存在。

②カロート　墓石の下の納骨室のことで地上式と地下式があります。地上式は丘カロートと言う。以前はカロート内の土の上に置いていましたが、最近は骨壷のまま納骨することが多いので、底つきのカロートが多いようです。

③外柵　墓地の境界を示すことによりお墓の敷地を表します。広さによっては作れない場合もあります。

④花立　花を供える為の場所で、水鉢の左右に据付けます。

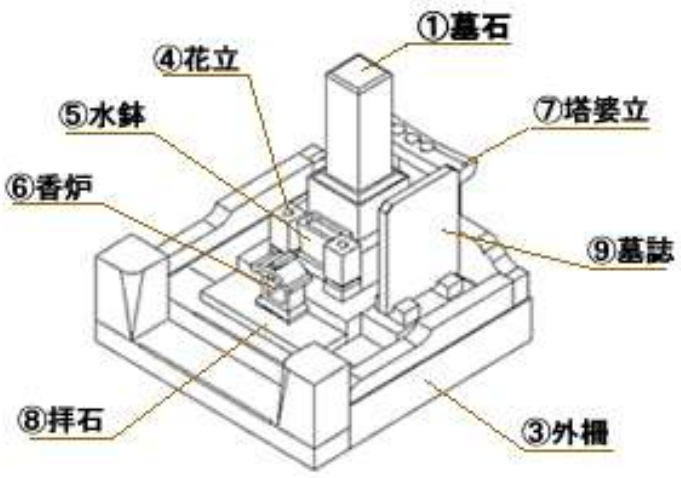
⑤水鉢（みずばち）　ご先祖様に清浄な水を供える為の鉢です。

⑥香炉　お線香を供える為の場所です。

⑦塔婆立　塔婆を建てる為の場所です。

⑧拝石（はいせき）　拝むところとなる石で、カロートの蓋の役割も果たします。

⑨墓誌　戒名や没年月日などを刻むため墓に建てる石板のこと。墓の広さによっては墓誌は建てられない。その場合は竿石の側面に戒名や没年月日を彫ります。



※②カロートは地中にあるため表記していない

節分について

節分の由来

二月三日は「節分」です。節分とは本来、立春・立夏・立秋・立冬それぞれの前日に、年に四回あったのですが、日本では立春は一年の始まりとして特に尊ばれ、次第に「節分」と言えば春の節分のみを指すようになりました。立春を一年の始まりである新年と考えれば、節分は大晦日に当たります。平安時代宮中では、大晦日に陰陽師らによって、旧年の厄や災難を払い清める「追儺（ついな）」の行事が行われていました。室町時代以降は豆をまいて悪鬼を追い出す行事へと発展し、民間に定着していきました。

豆まきの由来

節分に豆をまく、これは中国の風習が伝わったとされ、豆は「魔滅（まめ）」に通じ、無病息災を祈る意味があります。昔、京都の鞍馬に鬼が出たという話が残っており、「魔の目（魔目＝まめ）」に豆を投げつけて「魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通ずるとされています。

豆まきは一般的に、一家の主人あるいは「年男（その年の干支生まれの人）」が豆をまくとされています。年の数だけ豆を食べると、病気にならず健康でいられるといいます。

炒った豆をまくのは、「炒る」は「射る」に通じ、鬼や大豆は陰陽五行説（木・火・土・金・水の五行）の「金」にあたり、この「金」の作用を滅するといわれる「火」で大豆を炒ることで鬼を封じ込め、最後に人間が食べてしまうことにより鬼を退治したことになります。

鬼門と鬼のパンツ

鬼がトラのパンツをはくわけは、「鬼門」に由来するようで、鬼の出入りする方角が「北東」とされ、十二支にあてはめると「丑」「寅」にあたる。そのため鬼は「牛の角をもち」「寅のパンツ」を身につけているとされています。

当山では、二月三日の節分に、厄除け・家内安全・商売繁盛・星まつりのお札の依頼をお受けして、ご祈祷した後にお供物と一緒にお授けしています。

毎年多くの方の依頼をお受けしています。

新たに申込をお考えの方は、管理寺務所までご連絡下さい。

たちばな墓苑　二〇一九年度分　管理料納入のご案内

管理料は、毎年三月末日が納入期限の前納制になっております。未納の方は、早めにお納め頂きますようお願い申し上げます。

納入方法は、ご持参もしくはお振込でも可能です。

ご不明な点がございましたら、管理寺務所までお問い合わせ下さい。

【墓苑管理料振込先】

銀行名　多摩信用金庫　秋川支店

口座番号　一五一六二四九

受取人名　宗教法人宝清寺　代表役員石井前琮（ぜんそう）